

<熊本支部例会事前抄録>

日時：2022年1月25日(火)19:30～

会場：zoom オンラインミーティング

—一般口演抄録—

バーティカルストップが消失した患者の全顎治療

～Narrow-diameter Implant の論文的考察～

三村彰吾 医療法人共愛会 共愛歯科医院 〒861-2231 上益城郡益城町安永 722-4

■ 抄録

口腔を健康に保つことは全身の健康維持にとって大変重要である。インプラント治療は欠損部における補綴治療の際に質の高い口腔機能回復する有力な手段となっている。

インプラント治療を行う部位の骨幅が狭い場合、通常は骨造成法を併用し、インプラント埋入手術を行うが、その場合、治療侵襲の増加、治療期間の延長、治療費の増加など、患者の負担が大きくなる。そういう場合、私はナローインプラントを用い、既存骨に低侵襲なインプラント治療を行うことが有効であると考え

る。

今回、骨幅の狭い部位にナローインプラントを埋入し経過良好である患者の治療経過を供覧し、またナローインプラントについての論文を42報紹介して私なりの考察を示す。

患者は、62歳女性、初診日は2015年9月4日。主訴は臼歯部欠損部の補綴希望で来院した。診査診断後、患者に治療内容を説明をしたところ矯正治療及びインプラントを用いた全顎治療を希望した。インプラントは下顎臼歯部の骨幅が狭かったため、直径3.3mm長さ10mm (Straumann Roxolid®)のインプラントを用いた。

皆様の忌憚のない意見を伺いたい。